

2005年2月14日発行

ぷるす

四季の会・ユーザーズ・サービス

187号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 残寒の候、先生におかれましては益々御健勝のことと存じます。

確定申告期が間近にひかえ、益々御活躍のことと思います。この期は、新規拡大の旬であり、「気をかけて、心をこめて」顧客獲得に力を入れてみてはいかがでしょうか！

「北の零年」が上映されている。吉永小百合主演に感動された。2月9日 日経「あすの話題」で上智大学教授 猪口邦子氏の「北の零年の思想的輝き」として書かれ、有名な先生にも感動されたのかと思います。

その中で「政治、行政、社会」等々、明治の初期と現在は全く同じような無数の側面がある。どの部分をどのような観点からみるかで、思考と意識が決まる。すべての歴史は現代史であり、また現代思想の到達点の源流は、自らの歴史の深層に発見することができる。

北海道・静内に明治政府の命で、温暖な淡路から移住を、余儀なくされた稲田家の家臣と家族がモデルである。開拓の苦勞や非情という一般的なテーマを、描く映画ではなく、これを傑出した映画にしたのは、現代人間社会の、思想的到達点を表現しているからであり、その起源が、日本史にもあることを、史実のその部分にライトを当てて示したからである。

絶望のなか、静内に馬の飼育による活路をもたらすのは、吉永の扮する重臣の妻である。日本女性が、その作法と慎みを踏まえてもなお無類の突破力と持続力を発揮し得ることを吉永は説得的な演技で示している。一人娘を従え、野良着で馬上から明治の入植地を救う女性に、日本史に内在する現代世界への普遍的な輝きとメッセージが託されていく。瀕死の少年が淡路の花の豪華さを深雪のなかで最後に見たいと願うとき、晴れ着を裂いて枯れ木に大らかな花びらを作る場面は、少女の想像力が共同体に

永遠の希望をもたらすことを暗示している。そしてその少女の命を救うのは、父でも母でもなく、アイヌ民族と暮らす人であり、また北海道に酪農技術をもたらしたのは米国人である。

日本の思想性と発信力を担うすさまじい力量の人々のいることを実感し、世界のなかのこの国の未来を直感した。

いまや長引く不況の中で、希望をもち打開策を模索している企業も多い。その中でも独自の道を切り開いた経営者もいる。その姿と精神にこそ学ぶことがこの映画で見ることができたと思われました。

心眼を開け!! 目に見えない世界をみる

私は「日本創造経営協会」で天^{てんみょう}明茂先生の御指導を受けたことがあった。現在、天明先生は宮城大学教授である。論文が「致知 2005.2」に掲載され、懐かしく見ることができた。相変わらず鋭い筆法で、私たちに教えてくれている。

「心眼を開け」と。「君は目が悪い。心眼を開け」いまから40年ほど前、公認会計士になり立てだった私に、恩師 薄衣佐吉先生から突きつけられた言葉です。

あれから40年、会計士として多くの企業を見、経営に行き詰った企業の再建の仕事にも携わってきました。その中で次第に「目に見えないもの」の大切さに気づき、心眼を開いて物事の本質を見られるようになってきました。

企業では、売り上げや業績といった目に見える数字ばかりを追いがちですが、むしろ会社の将来や成功の鍵は、数字を動かしている「目に見えないもの」にあるのです。私はこれを実証すべく、現代社会で成功を収めている多数の企業取材し、調査を重ねました。すると、多くの企業、なかでも創業経営者に共通する事項を見出すに至ったのです。

「21世紀はいのちの時代である」と考えています。大自然、自分を生かしてくれているあらゆるものに、感謝と恩返しのお気持ちを抱く心豊かな時代。だからこそ私たちは、数字の姿ばかりを追求するのではなく、目に見えない世界をしっかりとつかんで、ここを高めていかなければ、本当の繁栄は得られないのです。

では、「見えない世界」を安定させ、成功を収めた創業経営者に共通するものとは何でしょう。

一つは、お客様にただ物売りのではなく、感動や幸福を与えることでお客様の心をとらえていることです。そして感動や幸せ感を共有できるお客様とともに地域社会を良くしようとしている、ということです。一人ひとりの幸福を徹底して追求していくことで、その輪を広げていく。善の循環が生まれているのです。

二つ目に、必要以上に大きくしない、ということです。規模よりも顧客満足や企業の文化、社員の幸せなどに価値を見出して

いることです。大きくすると大切な企業文化が失われてしまう危険性があることに加えて、地域を大切にして地域の繁栄に貢献する、という気持ちが強いからです。

三つ目に、みな口を揃えて言うことですが、「出逢いが自分を変えた」「おかげ様」ということです。決して自分の力で成功したと思いません。家族、社員の方々、お客様、取引先、多くの人々の願いを感じるようになり感謝の心が変わっていきます。その感謝が、物質的な幸せではなく、本質的な幸福へと自らを導いていくのです。

四つ目に、障害や壁にぶち当たり克服する。それを決して人のせいせず、自分の問題としてとらえ、自身の努力や自らが変わることによって克服しているということです。成功した経営者の多くは「これが良かった」と必ず言います。

この四つ以上に何より大事なものは、強い志を持っている、ということです。現状や社会の不条理に対して「自分を変えていかなきゃならん！」と強く感じたとき、その思いが発展の原動力を生み、逆境を乗り越える力になっていく。そしてこの志が「見えない世界」を築く土台となっていきます。会計事務所経営に感ずることが多々ありました。

思いは必ず実現する

お客様の喜び、悲しみ、悩みを経理を通して共有する。これこそサービスの原点である。コミュニケーションを踏み出してみる。お客様の心の声がわかる。「コミュニケーション力」は「仕事の品質」×「感情」です。

会計事務所がお客様に喜ばれる大事な事は「仕事の品質」×「感情」です。これが「コミュニケーション力」となり、仕事のスタートになるのです。それでは「コミュニケーション力」とは何か！

コミュニケーション力とは、プライベートな人間関係でも、コミュニケーションの欠如からトラブルを招くことが多い。仕事に就く力として第一に挙げられるのも、コミュニケーション力である。コミュニケーションが上手くできない人間とは付き合いたくない。一緒に仕事をしたくないというのが一般的感情である。意味や感情をやり取りする行為である。「意味と感情」とは「お互いで無理が言える世界」である。

何かトラブルが起きたときに、「コミュニケーションを事前に十分とるべきだった」という言葉が良くいわれる。細かな状況説明をし、前提となる事柄についてお互いの共通認識をたくさん作っておくべき。

「月次会計や決算診断提案書」の「意味」となる。コミュニケーション力とは、意味を的確につかみ、感情を理解しあう力である。もう一步お客様に近づく。それが社長との無理が言える世界をつくり、お客様を紹介して下さい！報酬を上げて下さい！と自然に言える。「自信と信頼」で成功していくのです。